(言じられないほど暑い日が続いたある日。ふと目にしたネット上のつぶかきに、気になることばを見つけた。

「セミ感がある」

「セミ感」って、昆虫のセミみたいにジージーうるさいってこと? それとも「セミロング」「セミファイナル」のような「半ば」や「準」の意味の「セミ」のこと? あわてて前後の文を読むと、どうやら「セミ」は昆虫の「セミ」。ただ、うるさい感じの「セミ感」ではなく、時間をかけて準備をしたのに、日の目を見たのは短い期間だったという、いわばはかない感じの「セミ感」だった。なかなかユニークなことばのセンスだが、「〇〇感」のように「感」がつくことばは、驚くほど数が増えているように思う。

「〇〇感」は、「〇〇な感じ」「〇〇がある感じ」という意味で使われる。「孤独感」「幸福感」「臨場感」など「感」がつくことばはもともと多いが、最近では、「彼氏感のある俳優」「スイーツ感があっておいしい」といった使われ方も目にする。また、ものの様子を表すことばなどにもくっつき、「ざらざら感」「すっきり感」「ひっそり感」のようにも使われる。

これほど「〇〇感 | がもてはやされる理

由は何だろうか。まず、考えられるのが、 文字数の少なさだ。「彼氏っぽい感じがする」とするより、「彼氏感がある」とするほうが短く表現でき、ネットでつぶやいたり、 スマホでメッセージを送ったりするときに 使い勝手がいい。

また、「感」をつけることで生じる「直接的でない感じ」も使いやすいのだろう。少しオフィシャルな、職場の会話などでも「〇〇感」は増殖中だ。

「皆さんの夏休みのスケジュール感を教え てください」

「予算感は、だいたいどれくらいを考えて いますか!

それぞれ「スケジュールを教えてほしい」「予算はどれくらいか」という表現に比べると、「感」をつけることで少しあいまいな感じになり、聞きにくいことも聞きやすくなる。これは、相手との関係をなるべく良好に保とうとする、現代社会における一種の配慮表現なのだろうか?

「感」について考え出すと止まらない。「納得感がほしい」と「納得したい」はそもそも意味が違うのか。秋の夜は長い。「栗感」たっぷりの栗ごはんでも食べつつ、もう少し考えてみよう。 中島沙織(なかじまさおり)